

令和2年度第2回 尼崎市生涯学習審議会 会議録要旨

日時	令和2年11月11日（水）午後6時から午後8時まで
場所	尼崎市中央北生涯学習プラザ 小ホール
出席委員	渥美会長、江田委員、大槻委員、田井委員、田中委員、中平委員、久委員、松村委員（2名欠席）

■議事内容

1 開会にあたって

ア 委員の近況報告

イ 傍聴者の確認

傍聴者なし

エ 会議録署名委員について

五十音順に田中委員と松村委員を指名

2 生涯学習の目的と事業・取組（審議）

生涯、学習！推進課から資料1「生涯学習審議会について」及び資料2「各地域課の事業・取組発展のイメージ」について説明を行った。

○委員

「各地域課の事業・取組発展のイメージ」の取組の視点が「教養」、「人権・平和」、「社会課題・地域課題」となっているが、いわゆる社会教育の文化、スポーツ、青少年健全育成といった切り口とは違う。あえてこの切り口にしているのか。

◆生涯、学習！推進課長（事務局）

あえてこのようにしている。前回の資料で「個人の学習要求に応える」を柱として立てていたがそれを「教養」に置き換えている。「人権・平和」も大事な視点ということで残している。「シチズンシップを育む」、「学びによるセーフティネット」等と合わせて計4本があったが、再度考えた中で広い意味で捉えると、もう1つは「社会課題・地域課題」になると考えた。テーマとして組むよりも項目としては視点で大きい区分として捉えた。文化、スポーツといった立て方はしなかったが、例えば、地域の中でその内容が必要であれば、立てることもできるということにしている。

○委員

生涯学習審議会の調査審議事項の説明で、従来の社会教育の内容がきちんとできているかどうかという観点もみていく、という説明があったが、そうだとすると、この切り口で

は見えにくくなっていると思う。社会教育としての側面がちゃんとできているかということ大きな柱にするのであれば、従来の社会教育の分野や内容と重ねてみていく部分があってよいと思う。逆に切り口を変えるというのであれば、それはそれでよいが。「教養」、「人権・平和」、「社会課題・地域課題」という切り口がどういう切り口か共有しておかないと、人によってどっちに入れるかわ変わってくる。あるいは社会課題・地域課題にたくさん内容が入っているというのは、ここに何でもかんでも詰め込もうとしているのではないか。バランスの問題も含めてみると、この3つの切り口でいいのかと思う。3つの切り口でいくのであれば、もう1つ下にブレークダウンしたサブの切り口があった方が分かりやすいのではないかと思う。切り口をどうするか、きちんと議論して共有して、誰がやっても同じところに入るところまで高めていった方がよいのではないか。

◆生涯、学習！推進課長（事務局）

従来の社会教育が踏まえられているかというご意見に対しては、社会教育の観点を地域づくり、人づくりといった大きな意味での社会教育と捉えていただいた方がよいと考えている。文化、スポーツといったテーマを切って見ていくのではなく、活動・講座をすることにより地域がどのように変わっていくかといったことを意図して、その意図に対して地域がどう変わるのか、どう動いたかを見ていくことが大事かと考えた。社会課題に何でも入るのではないかということについては、確かに様々なテーマが入ると思うが、資料2の立花地域は社会課題に関しても、子育て、課題を知ってともに考える、活動をつくるといったように細かく切り分けている。少なくとも地域課で決めた部分は、地域課で共有されると思うが、6地区横並びで決めていかななくてもよいのではないかという考えで資料を作成した。

また、〇〇委員が前回、今回とご欠席のため、資料送付の際にご意見をいただいたので紹介させていただく。「教養」、「人権・平和」、「社会課題・地域課題」と切るのも1つだが、例えばSDGsの17個の目標で取るのも1つではないかと言っていた。捉えやすい目的で取るのも1つではないかということなので参考にさせていただければと思う。

○委員

今の話はどう分類していくかという話だと思う。そもそものところを教えていただけたらと思うのだが、この3つの軸が社会教育やプラザですでになすべきものとして挙がっているものなのか、SDGsなのか、そもそも、これまで目標自体がなかったのかとさえ思われてしまう。これまでしている事業があってそこにも目的があったと思うが、現状ではそれが見えなくなってしまうように思うのだが。

◆生涯、学習！推進課長（事務局）

柱3本が妥当なのかどうか、今までどういうやり方をしていたかも含めて実態を教えてくださいというご意見かと思う。資料1の4ページ目の下に示しているとおりの5つの事業で公民館時代から実施してきた。その事業の中で市民大学、日本語読み書き教室、地域現代学講座といった講座や事業があった。1つ目「人権・平和学習推進事業」が人権・平和を扱うもの、2つ目「家庭・地域教育推進事業」が子育て関係、子どもを対象にしたも

の、3つ目「生涯学習推進事業」が歴史・文化・文学を学ぶ教養を高めるもの、4つ目「地域力創生事業」が地域課題や社会課題を学ぶもの、5つ目「市民参加・交流・連携推進事業」が居場所を作ったり、市民が企画する事業である。すでに実施している事業があり、これを継続しながら取組を進めているので、スタート地点は今している事業を含めて分類していくことが必要かと思った。大きく人権・平和の視点を失わないようにしつつ、生きがい促進や健康増進も含めた教養、貧困や子ども食堂、個別のテーマを社会課題・地域課題で大きく分類してみて、概ねこの3つになるという整理をした。この整理では様々なところに関わるものが出るので目的は1段上に上げて整理をした。

○委員

○○委員の投げかけと私の投げかけは共通するところがあると思うが、ストレートに言わせてもらおうと、ストンと落ちて来ていない。これで何をしかけようとしているのか、何を共有していこうとしているのか、次に何を発展させようとしているのか、今の状況ではわからない。単に講座や事業を整理して表にまとめたというように見える。例えば、大阪市の生涯学習大阪計画では、「たがやす生涯学習」、「かかわる生涯学習」、「つくる生涯学習」という3つに分けて、学びの循環をさせようとしている。ここで言う教養は「たがやす生涯学習」、仲間を作って社会に関わっていくのが「かかわる生涯学習」、自分達で機会を作っていこうというのが「つくる生涯学習」、そしてまた学ばないといけないことが出てきて「たがやす生涯学習」に戻るという3つの循環をイメージしている。その3つの切り口が生涯学習の発展のイメージとなっている。こうしたダイナミックな点が今の表からは読み取りにくい。現在の表を修正するというよりは別バージョンのものを作っていただくと、連携・発展のプロセスが明確になり、共有できると思う。

○委員

配られた資料の中にあげられている、地域課が行う取組の目的の3つや、尼崎市教育振興基本計画の3項目で、地域課や生涯、学習！推進課の事業を項目分けできないのだろうか。あるいはこの資料にあげられている項目と「教養」、「人権・平和」、「社会課題・地域課題」をきれいに対応させて、切り分けることができるのか。すでに挙げられている項目があるのにも関わらず、これとの対応関係がどうなのか見えなかった。

◆生涯、学習！推進課長（事務局）

これまで地域課の目的として明確に掲げているものがなかったので、事業等の実施状況を踏まえつつ今回整理した。個人に対して知識や教養を高めるという視点、それが地域の一人として広がり、さらに地域がもっとよくなるというのを目的として整理した。そのアプローチの仕方として、「教養」、「人権・平和」、「社会課題・地域課題」を提供することが漏れていないかチェックする表としてこのような取り方をして、教養を伝えるだけでなく社会課題を扱う方がいいという下の方に向かう方がいいということを意図して事業を改善することや、行政が主催するのではなく共催できたらよりよいし、地域独自の活動として広がればよいので、それを作るときに考えて、事業が右下にあるのが理想であれば、左上にある事業が右下に移るのがよいということを考えていけるような表にしたいと考え

た。教育振興計画の項目は、今回、地域振興センターの目的を考える参考として今回新たに提示したものと理解いただくのがよいと思う。

○委員

今回は、個人、地域、地域全体に目的を分け、それぞれが「教養」、「人権・平和」、「社会課題・地域課題」に対応していて、表として整理したら、上下であれば社会のサイズの問題、左右であれば主催の広がりということで、そこから見ていこうという試みだと理解している。今までの文化やスポーツという枠組みの方が分かりやすい、表に書き込みやすいのかという現場の問題、大阪市の「たがやす」といった方がこなれていて分かりやすいということかと思う。そういった修正をしたり、現場が事業を発展させるためにやりやすいかどうか、SDGsは今風でよいが書きやすいかが気になる。事務局で預かり修正を求めることにしたい。個人的には留意すべき点として記載されている「学びの機会を持ちえない方への保障」、「座学のみならず、実践的な学び」、「テーマの設定、様々な学び方」というのが全ての基本であるはずだと思う。それも込みにしていただいた意見を事務局と考えていけるようにしたい。

○委員

だんだん何が違和感になっているか明らかになってきた。「教養」を狭い意味、単に趣味・教養で捉えてないかということだと感じた。例えば、生きづらい社会で一人一人が意識を持って関わっていく、生きる力・基礎力を養う、時代の変化に対応して自分が変わるという「教養」も必要である。広い意味で「教養」を捉えると、決して趣味・教養に矮小化されるわけでない。狭い意味であれば別の言葉を使うべきだと思う。「教養」は広い意味で、これからの社会を未来志向で考えていくための「教養」もある。個人が能力を高める部分、仲間としてつなげていく部分、社会貢献していく部分で考えていくと、呼び方や切り口が変わってくるのではないか。

○委員

「個人が自分らしく生きるために」がイコール「教養」かということそうではないかもしれないし、「地域の一員として生きるために」はイコール自立、人権・平和となるとそれだけじゃない、直感的にマッチングできない。動詞として「個人が自分らしく生きるために」が「たがやす」といううまい表現もあるということで、趣旨は同じだが表現でずれているということかと思う。論理的には表現されていても、分かりやすさがどうかということを含めて修正する方向としたい。目標の呼び方や組み立ての修正ということでよいか。

◆生涯、学習！推進課長（事務局）

「たがやす」、「かかわる」、「つくる」は、目的と近いと理解をしているつもりだが、目的として3本があり、それと実施主体を組み合わせてもよいかと感じている。2段でなく1段で整理をすることも一つかと思う。再度作り、個別に相談させていただくことで対応したい。

○委員

教養については、私も〇〇委員と同意見である。「人権・平和」の下に「社会課題」がある。先ほど、下にいくほどいい、というような説明があったと思うが、「人権・平和」を大切にされている立場からすると、「違うのではないか」という意見、受け入れがたい表現でもあるように思う。

▲立花地域課長

今回、生涯、学習！推進課と協議しながら資料を作成してきた。目的と事業の関係が分かりにくいという話があったが、目的にどの事業があてはまるのかを試してみたが、一つの事業が複数の目的に関わり、再掲、再掲になってしまう。そうすると、やり方としては事業を並べて横に3つの柱を書いて星取表のように整理して、これでいいか、手法を展開すべきか、といった振り返りをする仕方もありかなと話していた。目的と事業は1対1で整理できたらよいが、1対複数になることが起こりえるので、アドバイスいただきながら、生涯、学習！推進課と相談しながら作っていきたい。

○委員

SDGs になってくると、何個丸をしたらいいのか、となるかとも思う。目的を達成できるようになればいいのだが、あまり形式にこだわってもいけないし、かといって形式がゆるゆるだといけないし、次の事例討議もあるので一緒に考えていければと思う。

2 代表事例（意見交換）

2グループ（テーブル）に分かれて、地域課ごとに3つの事業を共有した上で意見交換を行い、各テーブルの代表者からの発言等があった。

（1グループ：中央地域課、大庄地域課、武庫地域課、2グループ：小田地域課、立花地域課、園田地域課）

○委員（テーブル代表）

グループで話し合ったことを簡単に紹介する。各地域によって地域課が窓口になっていたり顔が見えていたり調整役になっている点が評価できる。何が課題になっているかを一覧化して見せることによって市民を巻き込むことができるのではないか。ある地区は非常に苦勞した事例を出してもらった。すべて市でするのではなく、例えばデザインはプロに任せの方がよいのではないか、という指摘もあった。子ども達を支援することが長い目の目標で、子どもが大きくなって帰ってきてくれるといった評価もある。初めて参加された方がどれぐらいいるかといったことを評価しては、ということもあった。たくさん抜けていることもあると思うが、参考にする意見がたくさんあった。

○委員（テーブル代表）

〇〇委員、〇〇委員は好意的な意見だったが、私と〇〇委員はシビアな意見を出したのでそこを共有したい。シートの説明は、全体の地域の目標があり事例があつて、最終的に

昨年度の全体の成果又は課題となっているが、3事例がどうやって選ばれたのか、目標との関係が見えなくなっている。評価シートの作り方を、次回から工夫した方がよいのではないかと思った。質問をして回答を聞けばよく分かるが、なぜシートの説明のときにうまく伝わらなかったのかということがあるので、言いたいこと、伝えたいことが共有できる評価シートにしたらいと思う。

学校と地域の連携では、すでに教育委員会はたくさんの事業を持っているし、文部科学省もコミュニティスクールや新しい事業を展開しようとしているので、それと今している事業がつながればより密接になっていくと思う。そのためには、地域課が色々な情報や制度を知っておかないといけない。しかし、地域課の職員がすべてを対応することは限界があるので、地域課だけではなく、事業のときに担当課と一緒に実施することができれば、その担当課の情報も組み合わせられるんじゃないかと思う。

顔を出していく場所とか、集まってもらふ場所をつくるということを頻繁にしているが、今まで顔が見えていた人だけに呼びかけるとその関係は密になるが、アプローチできていない人は集まって来ない。生涯学習プラザを利用している方の中に元気な若手もいるので、その人たちの活動に顔を出す、プラザに来られた際に一声をかけるということをするれば、関係が作れなかった人にも触手が伸ばせられる。また、地域の課題を共有するときに、地域の方々が持っている従来型のイメージを職員も持ってしまおうと違うところに行ってしまう。地域活動の担い手が高齢化している、なかなか世代交代ができないということ地域の方から聞くが、地域に入らせてもらっている立場でみると、それは今の地域の担い手の問題が大きいと思う。従来型の活動をしてしまうと、若い方には活動のやり方がフィットしない。自分達が変わらないかぎり次の世代は来ないと思っていただいたほうがいいのではないか。そのためにはどういうことを地域課として行ったらいいかだが、地域活動の担い手の意識改革の講座を企画するとか、他市の元気な地域の声を聞くような講座を実施してもらって、それを受講した地域活動の担い手の何人かの意識を変えていくような戦略をとっていったらどうか。そのためには、地域課の職員が、目指すべき地域像、理想像、ゴールを共有しておいて、今の地域がこういう段階だからこういう仕掛けをすれば理想像に近づくという戦略を持ってもらおうと効果がでるのではないかと思う。

○委員

以上で審議は終わりだが、全体を通して何かあるか。次回の日程について、事務局からお願いします。

◆生涯、学習！推進課長（事務局）

先ほど最初に全体の議論をいただいたときに、目的は頷きながら聞いていただいた委員が多かったと思うが、主体と取組の柱の関係性を整理した方がよいという意見が特に多かったと感じている。個別事例を見ていただいた中で、そういう視点も踏まえながらどういうふうに評価をしたり振り返ったりした方がいいのかを合わせて考えさせていただきたい。日程も改めて連絡させていただきたい。

○委員

「人権・平和」について、募集したりアンケートをとるときに“男・女”と表記があったり、問い合わせ先が電話だけだと聴覚障害の方は申し込めないなど、人権の観点での開催がされていないと思っている。ワークショップは、精神障害を持っている人もいるので見学席を設ける方がよいと思うし、見学席があることで参加しない人も出てくると思うが、見ていたい人達のこととも考えてほしい。こういうことが人権侵害になるのではないか、こういう表現が人権侵害になるのではないかということを、市職員も私たちも含めて、勉強しないといけない。

○委員

重要な視点の意見をいただいた。次回日程は事務局に預けて閉会とする。

閉会

以 上